

三河 アララギ

2024年 令和6年7月 文月

ふみづき

七 月 号

第七十一巻 第七号



ニューヨーク日記(213) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

HI MANATEE

Blue Shoe Diaries



やっと会えたよ！ マナティー！ 見て、この可愛さ。それも家のすぐそばのピアをのんびり散歩(?)していたの。南フロリダには沢山居るらしいけどイルカのように水から飛び出ているところがないからなかなか見れなくて。今回やっと会えました！ 知っていた？ マナティーはオナラで水の中で前に進んだり潜ったりするんだよ。かわいすぎる！

Finally! We saw a manatee. This manatee was at the pier a few steps from the house. Isn't he (?) the cutest? Manatees are apparently all over southern Florida, but because they don't peek out of the water as much as dolphins, they've been so hard to spot. This totally made my day. Fun fact, did you know manatees fart in order to move underwater? I find that so adorably funny.

目次

第七十一卷第七号(通卷八四七号)

表紙・十一面千手観音菩薩 (1)

ニューヨーク日記(213) Blue Stone (2)

歌集 わが冬葵 御津 磯夫 (4)

歌集「草々」 今泉 米子 (5)

三河アララギ歌集V 大須賀寿恵 (6)

三河アララギ歌集IV 夏目 勝弘 (7)

『歌集 八千代』 岡本八千代 (8)

三河アララギ歌集VI 弓谷 久子 (10)

本当のことばかり 今泉 由利 (12)

曾孫 安藤 和代 (14)

母の日 山口千恵子 (16)

トンボロ干潟 杉浦恵美子 (18)

心の迷い 伊藤 忠男 (20)

庭中改修(その四) 白井 信昭 (22)

空色の風 矢崎 直人 (24)

『いとよせ』 いーはとぶ

牧原 規恵 (26)

稲吉 友江 (26)

鈴木美耶子 (27)

牧原 正枝 (27)

森 厚子 (28)

水野 絹子 (28)

大武 智子 (29)

現代学生百人一首 東洋大学

山下わかな (30)

田代 桃 (30)

藤井 帆海 (30)

高田佳穂子 (30)

高橋 玲亜 (31)

照井 志穂 (31)

横溝麻志穂 (31)

大場 美言 (31)

植村 公女 (32)

木村 歩歩 (32)

今泉 如雲 (32)

矢崎 直人 (33)

今泉 由利 (33)

川口カルチャー受講者自作自詠俳句集 (34)

折々の詩(五) ふじのけんじ (36)

五感を澄ませば(25) 杉浦恵美子 (38)

附録(二十五) 矢崎 直人 (40)

『立夏』 中屋 保之 (42)

『酔いの徒然』(147) 丸山酔宵子 (44)

『無窮を指さず』 高橋 育郎 (46)

絹の話(164) 今泉 雅勝 (48)

『江上浩二の独り言』 江上 浩二 (50)

初狩便り32 花野みぷり (52)

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣 (54)

康鍼治療院 玄 翁 (56)

小説『後藤新平』を読み 人の邂逅に感有り

殿山 木風 (58)

編集室だより 今泉 由利 (60)

『三河アララギ』について (62)

歌集 わが冬葵

御 津 磯 夫

白松ケの甘きもの重く麴まるるいまだまみえぬ人のこほしも

鉢三百おほひて穂草の穂は高し日照りにも雨にもわが見つめゐて

百日紅の大樹の下のひこばえに笑きいづる今日も幹はつめたし

琴を覆ふに足るといふとも雨に風に破れ易きをわが愛すべし

三百十五萬のいのち消したるのちにして一日やうやく平和を誓ふ

わが窓に掛曼陀羅の花の萩光ゆりつつ紅くれないこぼす

南青山の砌の鉢に見おぼえの細葉の擬寶珠はわが砌にも

長く病む子の名にかけて乞ひ願ひ移しし淨瑠璃擬寶珠花笑く

佳きことの兆にせよとわが歩む庭石の上を這へる石龜

野の道を一昨日歩をみとるし龜に似つつわが庭をよいぎかる水龜め

歌集 「草々」

今 泉 米 子

朝の間にゆかむ墓のちちははにわが深井戸の水を汲みあぐ

上向に木芙蓉は今日の花を閉づ笑きゆくよりも濃きくれなるに

木芙蓉のタベ閉ぢたるくれなるをとりて染めにき三年前に

畑の畔そひゆくみちにうねの直立ち笑ける葦の白花

庭のみちいよいよ狭し石路つはみぎの植ゑざる花の傾きて笑く

紫陽花の花のみどりにかへりつつ雨には傘を傾けて通る

歸り來て開けしわが家のくらがりにはびきて鈴蟲なき交しゐる

朝明けの外井戸汲める水の音八幡やはたの菊の馬穴に一ぱい

ほしいままに笑くコスモスの上をよけてたまりし洗濯物を干しゆく

残るものなきがごとくに日々過ぎて今夜も指のささくれを剪る

三河アララギ歌集V

大須賀寿恵

蒼く澄みて透れる今朝の天空を翔びゆくもののなきはよろしも
縁どりてきらきらと今朝の霜白しほとけのざまたはこべらの上

今日一日おだやかならむと思ひつつ一人歩めり霜厚き朝

さわがしきまでに囀る声のしてきさらぎ雲雀は枯草の中

何といふことあらねどもタベ早く飯を終へつつ心足りみる

松の緑すすくすく伸び立つ春の日の今日より成は中学一年生

またひとつ殖えたる右手の老斑に沁々としてクリームを塗る

疼痛に耐へて生きゆくも意義ありと悲しみながらのこの三十年

一人静の花にかがみて相共に心の内は言ひ出さずをり

移り棲みて十三年なり東を西をいまだあやまつわが日々にして

三河アララギ歌集Ⅳ

夏目勝弘

揺るる枝揺れざる草とこもごもに朝の庭の土の輝き

女郎蜘蛛の網にかかりて揺れてゐる狂ひ咲きせし山桜の花弁
飛石の切れたるところに風道あり庭園灯の光明るく

食卓に零れてゐたる削り節吹き抜けてゆく風に動きて

耳に手を当てつつ聞かむ音のあり窓のガラスの白みそむるころ

庭なかに渦巻き移る風のあり御幣の切れ端など巻き込みて

白銅鏡の光となりたる放水路の水面に影する物なきがよい

起き上がる我を圧ふるもののあり昨夜より籠れる空氣の淀み

物音の絶ゆるときあり寝たるまま左の肩をひとり按摩す

逃げ水を追ひゐる如く歩みゆく第二臨調を疑ひなどして

『歌集 八千代』

蒲郡 岡本八千代

いつしかに自由行動をやめにして二条陳屋へみな行きたがる

仇野にも三千院にも行かずしてただ従ひぬ京都の街を

ひとり離れて仇野を見にわが行くとつひに言へずに帰りにけり

忍者屋敷の南の庭に咲きゐたる白き芙蓉の大きかりけり

「子規といふ人」靴に入れしまま帰る二泊三日の修学旅行

十八歳で死にしといふツタンカーメンの黄金の寝台小さかりけり

ツタンカーメンの胸に両手を組みし姿未来の労働を意味するといふ

前歯の金を嫌ひてをりしわが夫はつひに二本も入れてしまひぬ

虫鳴ける今宵よりまた日記書き家計簿も細かくつけたくなりぬ

蜂に刺されし生徒にぬりしアンモニアのわが指に匂ふまま授業する

シュバイツァー博士逝きしを話して一時限の国語の授業始めむとする

陶芸家になるといふ君の手造りの風鈴を厨の軒に吊りたり

金太郎さの大松昔はわが松と祖父より聞かされ三十年経つ

うす紫の靄だつ山の上の学校にひとり日直の交替を待つ

弱くなりて留守を頼めるわが母に祭りの熱き焼栗を買ふ

三河アララギ歌集VI

豊川 弓谷 久子

玉虫色の輝く編み糸細くして忽ち夏のセーターとなる

蒲公英の白き穂絮の並び立つ人住まぬ隣家の月光の庭

春雷の一夜は明けて柿若葉の黄の色かがやく眩しきまでに

指先のかすかに青に染まりつつ藍染の糸にて夏服を編む

南部鉄の我が風鈴に雲のかげなると書いて短冊を吊る

霧雨のまだ降りながら御津山の上より梅雨の空晴れてゆく

亡き夫と共に草刈る夢見しと笑みつつ言ひき晩年の母

毛糸巻くかせくり機よりの小さき風けはひなきわが頬に冷たし

父母の法要の僧を待ちてをり母似の兄と父似の姉と

皺深き顔がテレビに映りをり兄は少女歌舞伎の創立者として

白き花の小さき父子草の一もとを残して夏草を引き終りたり

我が故郷はあの峡あたりか雨上がりの観音山に白雲なびく

こめと言ふ名の母なりき雪柳をこめ花と呼びつつ喜びたりき

敦煌の辺りが産地かと思ひつつわれは編みをりトルファン綿を

白と黄の蝶舞ふ如き忍冬の花を楽しみつつ柚道を歩く

本当のことばかり

東京 今泉 由利

自の心のままに生きてをり今日の一日も基本のままに

地球地下10キロメートル地点にて今朝の地震の源ありと

地球なる半径は6378キロメートル内部に何があつたのだろう

スコップもて地球の地下へ掘りゆく様を思ひ描きて疲れをり

地表より10キロメートル内部にて地球にいったい何起りしか

タンザニア北部キリマンジャロの地下を通つて湧きだした水に育ちしコーヒ―飲まむ

太陽と月と同じ原理にて赤く光れるスパイダー放電といふを

縁側に満ち満ち今日の日向ぼっこ四十六億年たちたることよ

地球は主に岩石と金属鉄で出来ていると今読みつづく本によると

地球誕生のもっとも古い四四億四〇〇万年前のことを

カナダにて見つけられし石にして約四二億八〇〇〇万年前のもの

沖縄の磯に見つけし「星の砂」有孔虫やココリスなどの殻所有

「古細菌」「真生細菌」(バクテリア)「真核生物」(コーカリア)目に見えぬもの

恵比寿なる昔のままの細道と宙を飛ぶような高速道と

定めたる目標の場所には行き着かぬそれでもなんとか恵比寿道

曾 孫

豊川 安藤 和代

濃淡の緑もくもく弓張の山脈五月の空広げゆく

逝く春を惜しみているや伸びのびて蜂を遊ばす大根の花

生くるとは負けてはおれぬ野の道の蒲公英いつせいに綿毛旅立つ

窓からの入り来る風の心地よし久々友に絵手紙描かん

幼な日に父母と遊びし砥鹿宮の祭り花火が今鳴り響く

今一度父母と行きたし宮祭り金魚綿菓子風車の音

三ヶ月なる曾孫抱けはずつしりと喜びあふれて涙あふれて

この指で幸せつかめと三ヶ月の曾孫の両手しつかりにぎる

両ひざに曾孫の重さ残りいて幸せいっぱい今日が始まる

ランドセル背追う曾孫を見たいとて早寝早起き今日も二千歩

雨雲の暗くおおいし庭隅にアマリリスの白清らかに咲く

腕が痛い腰が痛いと言いつつも幼馴染の電話は楽し

話す事ないと言いつつ友もまた孫の話でもう五十分

雨上り弓張山脈清々し全身の血のサラサラ流るる

夕迫る木立に聞こゆ山鳩のくぐもる声よ明日は雨らし

母の日

豊川 山口千恵子

庭隅に植ゑたり柿の苗一本未だ芽吹かぬ時々見つつ

唱へみる桃栗三年柿八年わが植ゑし柿の木の側に

指先のアカギレやうやく治りそむ続くる雨に家こもりゐて

ランドセル背負わせ写真撮る親子桜の花びらはらはらと散る

人住まぬ隣家の庭に咲きてをり紅淡き牡丹の大輪

馬鈴薯の畝より一本扱ぎてみる白々出づる丸々小さいも

草庭を耕し茄子苗五本植う大きな仕事したる思ひす

閉店の張り紙錆びたりシャッターに淋しき思ひに見て通る

素枯れたるシクラメンの鉢一つ閉店したる八百屋に買ひき

植垣にからみて咲けるテツセンの紫の花にしばし佇む

久々にミシンを出し縫はむとし糸通しに難渋してをり

母の日の娘よりのプレゼント顔にぬるオールインワンジェルクリーム

草花の寄せ植つひに枯れ始む春の日々早く過ぎ去りにけり

埋め置きしアボカドの種四つ遅早のありて芽生え来ぬ

水張田の上を翻り飛ぶ燕つひぞ見掛けず水無月の空

トンボロ干潟

蒲郡 杉浦恵美子

半世紀名すら知らずに隣町東幡豆海岸トンボロ干潟

トンボロ干潟歩いて渡る前島の昔の名前は兎島なり

前島の後ろも昔は猿ヶ島今は戻りて元の沖島

猿ヶ島少女の伯母が遠泳す今は猿居ぬ伯母も彼方に

潮干狩掘れども掘れども浅蜆なく鏡貝のみガツンと当たる

狩る人が打ち捨てたりし鏡貝小山をなして干潟のあちこち

潮干狩何十年せぬ間に様変はり名産浅蜆の獲れない渚

人捨てし鏡貝をば拾い集む勿体ないもの折角だもの

鏡貝砂袋さへ取り除けば少々硬いが結構な味

鏡貝流しに山ほど今からは砂袋除きに専念すべし

東幡豆駅前伯母の里なりき幼きわれも度々お供

東幡豆かばちや寺伯母の里の菩提寺今は何方が墓守してるか

夜の運転田んぼの蛙が鳴いてゐる競艇場は今宵は休みか

信号の歩行者向けのピヨピヨの音消えてゐる夜の駅前

夜更けて灯は煌々とエリカ号照らして居りぬ蒲郡駅前

心の迷い

大阪 伊藤 忠 男

今はもう忘れた過去と思へども沖行く船について見入るなり

遠くから見れば見るほど揺さぶられ設計魂蘇るなり

まだ未練あるかなしかは問わぬとも学びし技術消えることなし

同級の友の話題に相槌を打つも今では我が外の外

何気なく空海展に立ち寄りぬなんとそこには驚きばかり

曼荼羅の世界観には見えること見えぬこととて包み込むなり

仏教の枠超えるかと思わせる万物見据える空海の世界

中国を二年で切り上げ帰国した空海非才か異端児か

鉉脈に飢饉を防ぐため池も宗教ならず技術者なりや

死してより生きてる今を大切にこれぞ即身成仏と見る

曼荼羅に込めた思いは万物の迷い残らず包む広さか

科学でも迷う心に答えなく何が正しか永遠の問い

高野山宗旨宗派の別問わぬこれぞ空海そのものなりや

共存の世界に今も苦心する願いは今も昔の昔

目の前に真夏の予感身構える今日の気温30度越え

庭中改修(その四)

豊川 白井 信昭

朝より垣根生垣小鳥らの囀りベッドに聞こゆ

ランチタイム「蒲郡モダン」妻と食す名前しらねど深海魚^{うま}旨し

生垣に一本躑躅^{つじ}確かむる一つ小さき芽固きままにして

夕焼空垣根生垣あかね色モッコウバラの花眩しきに

垣根高く今を咲き誇るモッコウバラ夜ともなればまばゆきほどに

狭庭辺の庭中花壇ようやくに最後の支柱掘り出しにけり

風薫る五月晴れの下^{もと}み社の楠の森若若葉萌ゆ

楠の葉替の済みてこんもりと青空に映ゆみどり麗しい

御津山の葉替済みしか棲分の左右わかつ濃淡

地元の割烹料亭久しぶり注文に行く細道通

庭中の豆板路の花壇沿い一列増やして幅九十センチ

ようやくに三列並び平らかに境の段差解消したり

良興^{よしたか}さん持ちくれし蜜柑一袋「不知火^{しらぬい}」といふ相楽^{さがら}よりのもの

爽やかな五月風ふく入出口花壇下沿いコンクリート割る

入出口コンクリートを剥がしゆく手ハンマとタガネ石を出しつつ

空色の風

埼玉 矢崎 直人

あと一周走るかどうかが悩みつつスマホにキンシバイをおさめる

俳句といふ手段が伝ふ心かな言葉と心の原理原則

走ったら人より速し歩いたら人より遅し駅に行く道

コロナ禍でBCPは活かされたか能登の地震で考え直すか

あらかじめ予定を入れる休みのと予定を入れぬ休みをおもふ

唐組の花園神社紅テント水の飛沫の放てる力

バス停や施設の中の停留所人の心の居場所になるか

帰る時夕立ちに遭う昨日今日明日も雨が降るのかどうか

みどりの日母とネモフィラ咲ける丘立川昭和記念公園

入口からネモフィラ咲ける丘の上三キロあまり人の後付く

歩く人途絶えぬ道にパークトレイン歩ける人を時に追い越す

空色の風ネモフィラの丘の上立川の街みおろしながら

柳絮飛び荒川吟行思い出す一年前の思い出をふと

葉桜やザツクリ整地の駅の前駐輪場とロータリのみ

固き椅子試験対策始まりてまずは勉強時間を見つける

『いっとうよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

ポット蒔きしカボチャの種の黒き土に緑の点の鮮やかにして

牧原 規 恵

竹島の長き階段登りゆくわれら二人は遅れがちになり

休日の弘法さんの御命日参る人らの久しき賑はひ

久しぶりの休日のお参りなので子供達の声が境内にあふれて、お接待する私もほのぼのとした気持ちになりました。

川縁に夫と眺むる桜花コンビニ弁当交換したり

稲 吉 友 江

黄昏て急ぎ古巣に戻りゆく燕の二羽よ春の巡り来

庭の隅にうす紅のさすつつじ花催花雨に打たれ綻び始む

施設の方から携帯は離さず持つ様言われています。春の日夫と近場でのんびりしました。

ぽたぽたぽた降り込む雨の西浦駅まちあひ所は今テーブカットの時 鈴木美耶子

ま新しき西浦駅のまちあひ所やつてくるくる赤き電車が

今日よりはまちあひ所となる西浦駅墨色の屋根春の雨に濡れ

幼き頃より慣れ親しんだ西浦駅は、こぢんまりですが、ワクワクする待合所としてリニューアルされました。

いつからかサプリ聞かるる問診票あまたの通販飲まずにいるが 牧原正枝

年金の今年の粗品と検温計非接触型のいよいよ普及

眼の前を上り下りで行き交ひぬ機関車どれも「桃太郎」なの

ニュースを聞いているつもりでも全く知らない事があつたり、くり返される事での聞きもらしがあるこの頃です。

汽笛の音聞こゆらしいよ耳済ます煙も見えて川辺は沸き立つ

森 厚子

これがこの越すに越されぬ大井川待ち侘びる今SLの来る

ポオオオと汽笛鳴らして煙吐き今こそSL鉄橋わたり来

川根温泉にて。川縁に腰かけ皆とSLを待ちました。川向こうの丘に目を凝らし、ついに。

雪の舞ふ銅山観光ただ二組にくみトロツコごとり過去へ過去へと

水 野 絹 子

坑夫らの数多人生呑み込みて足尾銅山今はひつそり

ただ広き地平の果てに筑波山口を衝くなりデュークエイセス

銅毒事件しか知らなかった足尾。実際に訪れてみてその規模、歴史に圧倒されました。

珍しき春の草花見出でたりガードレールにギシギシの咲く

大 武 智 子

西田川の堤に咲ける雪柳いかに映るや三輪車の子に

いやいやを覚え初めし子その身体くねらせて泣くわが腕の中

四十数年ぶりに訪れた赤ちゃんとの暮らし、ベビーカーがわりの押す三輪車に乗って、時折り眠ってしまう孫です。

現代学生百人一首

東洋大学

着信で半トーンほど上がる声いつから母と同じになった？

北海道札幌北高等学校2年 山下 わかな

二回目のワクチン接種終わったよ単身赴任の父への切符

北海道美唄聖華高等学校3年 田代 桃

コロナ禍でマスク生活定着しドラマの中の少しの違和感

北海道美唄聖華高等学校3年 藤井 帆海

ありがとうコートに向けて最後の礼リング見上げて新たな夢を

青森県立三本木農業高等学校3年 高田 佳穂子

グーグルの使用法孫に聞くごめんねそれはグーグルなのよ

一関修紅高等学校3年 高橋 玲亜

初デート二人並んで歩く道これがいわゆる青春あおはるなのか

専修大学北上高等学校2年 照井 志穂

レジの前ライン引かれて気が付けば等差数列みたいに並ぶ

聖ウルスラ学院英智高等学校2年 横溝 麻志穂

次はいつ会えるのかしらと泣く祖母の手も握れずにガラスと会話

宮城県宮城野高等学校2年 大場 美言

『俳句』

不器用な父の老後や棕櫚の花

植村公女

遠来の客の饒舌五月尽

末っ子のかくれてばかり山法師

白杖の伝手奪いたる春工事

木村歩歩

知る人のまた逝きたるや夏立ちぬ

湯鏡にいろはもみじの若葉かな

梅雨空に読経空しき墓仕舞い

病み上がり雨に褪せたるあやめかな

右植田左植田やいなほ号

今泉如雲

老鶯や水量多き阿賀野川

鍛金の錫の猪口かな冷し酒

矢崎直人

バス停にバスを待つひと夏はじめ
薄暑光ネモフィラの丘登る人
歩いても歩いてもひと春暑し
立川の街を見おろし春暑し
夏めくや昭和記念の森の木々

今泉由利

日の長くなりたることよ朧月
春雨のポツポツ濡れてゆく
ほんのりと麴の花の咲くらしい
泥んこになりをり六月田植中
ぽつぽつと降り初む雨に濡れてゆく
大根の花咲きにけり千六本
母鴨に連なる十羽の子鴨たち
染付の器に盛りぬ桜海老

川口カルチャー受講者自作自詠俳句集

五月晴れ帰りゆく子の賑わしさ

木風

行く春や三河アラギ五月号

寐らる兄は五月で一周忌

初夏や刈るか刈ろまい庭の草

薔薇を見て漢詩に触れて酒を飲む

雨遅しあじさい咲くや散歩道

雄山

四十年苦樂しみつく我家なり

能登の山田植を待つ棚田かな

雨の日に譜面どおりのアルペジオ

春雨に傘をささずに風邪をひく

真白の花の満開えごの花

由利

虞美人草芥子坊主となりにつけり

紫は高位にありて紫根染

紫草小さな白い花咲かきぬ

藍染のかすり作業着茶摘みです

折々の詩(五)

胃潰瘍

新聞の書籍販売広告に
養豚界という雑誌があり
その月の特集は

「胃潰瘍に立ち向かう」

豚も胃潰瘍になるのか
やはり彼らも生きていくには
ストレスがたくさんあるのだな

もしかしたら
彼らは生まれる時から
殺される運命にあることを
わかっているのか

ふじのけんじ

あのつぶらな瞳で
答えない問いを考えているのか

今度

この豚は何を悩んでたんだろう
どんな人生（豚生）を送ってたのかと
考えながら
食べようかと思う

でも

そんなことを考えていたら
こっちが胃潰瘍になった
なんてことにならないように

外野手の孤独

後ろにそらすな

いつも叫ばれていた

投手も内野もできなかった

だからいつも守るのは外野

守っていると

ピッチャーが豆粒に見えた

いつも羨ましく見えた後ろ姿

内野はエラーしても 外野が取ってくれる

でも 外野は後ろにそらすと

誰もいない

かならず長打になり 点を失う

ホームに背を向けて 走る

早くホームに投げなきゃというのと

申し訳ないという気持ち

混ざりあいながら

ボールを追いかける

内野より遥かに広いフィールドに

ぼつんと三人

声が届かない

気持ちが届かない

いつも外野で生きていると感じる

決して光を浴びることなく

誰にも知られることなく

いつも何か大切なものを

そらすなと身構えて

ひとり守備位置についている

誰にも聞こえない歌を歌いながら

いつか聞こえてくる歓声を待ちながら

五感を澄ませば (25)

杉浦恵美子

讃岐うどん

最近香川県観音寺市を旅して、念願の讃岐うどんを食べに行きました。

と言えば簡単ですが、実際は旅行者にとってタイミン
グがちよっと大変。

うどん屋さんは数あれど、旅行者に都合よくは開店して
いません。大体朝から昼頃までの短い営業時間なん
です。

それで調べに調べて、宿から割と近い場所に朝8時開
店のお店を見つけ、朝食代わりにと日曜の早朝テクテク
歩いて行きました。

お店到着8時3分。扉を開けると狭い店内は既に満席。
しかも基本的にセルフサービスのようで、まるで雑沓
みたいにも客も店員さんも活気よく動いています。

呆然と突っ立っていると、奥の小上がりから男性客が
店員に

「小さい子がおるけん、汚して汚して」

と言いつける声が聞こえてきました。

「汚して」を二回重ねる表現は初めて聞いたのでとても新鮮でした。

子供がどのように散らかしたかが目に浮かぶようで、この地方ではこういう言い方をするのかと、改めて自分が余所者であることを意識。

そこでためらわずお店のおばちゃんに

「わたし初めてですので、注文の仕方がわかりません」と訴えると、一人で席に着いていた方に相席をお願いし、お品書きを示してくれました。

さて一番シンプルなのをと注文した「にかけうどん」のお味は？

お店の名誉の為に強調します。いりこ出汁が効いていて大変美味しかったです。

でも想像していたものとは違っていました。

思ったより細麺でコシが感じられなかったし、普段地元で食べるうどんとはどこか違うから？

気になったので後で口コミをチェックしてみました。

大部分は高評価ですが、中にはわたしののように感じた

人もちらほら。

そこでわたしの中での結論。

うどんのような、どこにでもあるものこそ知らず知らずのうちにその土地の味に舌が慣れてしまい、別の味に出合うと、違和感を覚えるのではないかと。

それは勿論逆も言えます。讃岐うどん本場の方々は、わたしが美味しいと思ううどんを食べたら、どこか違うと感じられることでしょう。

それにうどん屋さんの雰囲気。言わば社交場。現に知り合い同士が

「久しぶり。最近どうしてる」

などと楽しそうに会話してましたから。

わたしの住む地域のカフェモーニングと似ているかもしれないと思いました。

ところで、わが地域は、日本列島のほぼ真ん中であるため、東西両食文化が入り混じっていたり境界になっている面があります。

鰻のさばき方、餅や稲荷ずしの形、蕎麦かうどんか、醤油の違い、玉子焼きの味付け、

鰹出汁か昆布出汁か、濃い味か薄味か等々枚挙に暇あ

りません。

そう言えばわが地域では「しろにかけ」「あかにかけ」の二通りのにかけうどんを提供するうどん屋があります。「しろ」は「白醤油（三河特産）」「あか」は普通の醤油のことで、厳密には白〓西という訳ではないでしょうが、白出汁と混同しがちでいかにも東西両食文化の境界ならではのお品書きではないかと面白く思います。

ちよつと他郷に行ってみるだけで、言葉にしろ、料理にしろ、違いが感じられて、人がそこで暮らすことの奥深さを垣間見た気がしました。

我が夫は三軒梯子をしたと言ふ讃岐うどんの本場に来たり

附 録（二十五）

矢 崎 直 人

バス停にバスを待つひと夏はじめ

二〇二四年五月二一日読売新聞の記事で「認知症の人が介護施設から「家に帰りたい」…グループホームが敷地内に「バス停」を設置したワケ」という記事を読みました。

「施設の外に出て行こうとする利用者に、職員が「ここからバスに乗りましょう」と持ちかける。ベンチで待つ間、「帰れる」と思って安心し、次第に気持ちが切り替わるといふ。「自宅に帰りたい」との思いを尊重した認知症ケアの一環だ。

施設で生活されている方の中には、家に帰りたいと思う方や外に出たいと思う方がいらつしやると思います。様々なストレスとそういう思いが高まった時に「気持ちが切り替わる」ような試みは参考になるかもしれないと思います。ドイツをはじめ欧州の介護施設で始められた活動で、愛知県豊橋市の施設では地元の企業と協力して行われている活動とことです。

バス停や施設の中の停留所人の心の居場所になるか

夏めくや昭和記念の森の木々

みどりの日に母と立川にある昭和記念公園に行ってきました。最近、丘でネモフィラを育てていて見頃になったというニュースが流れていて行ってみました。公園は広く、中には自転車専用コースがあったり、パークラインが走っています。どちらも利用にはかなりの人が順番待ちをしていました。丘までは三キロほどで、歩く人が途絶えることはありませんでした。ネモフィラは一面に青い絨毯をしいたように満開で、空の色と似ていて空間が広がっていくようでとても綺麗でした。

空色の風ネモフィラの丘の上立川の街みおろしながら

『芒種』

中屋保之

この時期、二十四節気の「芒種」にあたる。稲の穂先のような形を「芒」と呼び、稲や麦などの種を播くことから「芒種」と呼ばれるようになったそうで、農作業が活発になり梅雨に向けて雨雲も増えてくる季節をいう。もともと、現在ではもつと早い時期に種がまかれるが…。

種を播き、その植物が成長していく姿から、「芒種は縁起が良い」とされ、お稽古ごとなど何か物事を始めるには、この時期が良いと伝わる。さらにひとつの節気を「初候」「次候」「末候」の三つにわけて考える「七十二候」というものもあり、芒種の「初候」を 蟪蛄生かまきりしやうす と称し秋に産卵された卵が孵化し、赤ちゃんかまきりが誕生する頃という意味。その風貌が独特で、一見こわそうなイメージがあるかまきりは、農作物には手をつけず害虫のみ捕まえてくれる、じつは頼もしい昆虫だそうだ。「次候」を 腐草為萤ふそうはたるとなる といい、梅雨の湿気を帯びて腐れたようにみえる草々のなかから美しく光る萤が飛び交う姿がみられる頃という説と、梅雨を迎えて水辺の草陰で腐った草が蒸れて、萤になるとの説も伝わる。そして「末候」だが、梅子黄うめのみきはむ という。梅の実が薄黄色に色づく頃という意味で、そもそも「梅雨」という言葉は、梅の実が熟す頃の雨を表し、霪かひが生えやすい季節、「霪雨」とも書く。そこに昔人たちの自然との折り合いを見る思いがする。

夏初雨後尋愚溪（夏初の雨後に愚溪を尋ね）

柳宗元りゅうそうげん

悠悠雨初霽

悠悠雨初ゆゆうあめはじめめて霽はれ

獨繞清溪曲

獨ひとり繞めぐる清溪せいけいの曲きょく

引杖試荒泉

杖つえを引ひきて荒泉こうせんを試こころみ

長い長い雨が晴れたばかり

一人で清らかな谷川のはとりを歩き回る

杖をたてて荒れた泉の深さを試したり

解帶圍新竹
沈吟亦何事
寂寞固所欲
幸此息營營
嘯歌靜炎燠

帯おびを解ときて新しん竹ちくを囲かこむ
沈吟ちんぎん亦また何なにをか事こととせん
寂寞せきばく固もとより欲ほつする所ところ
幸わがはくは此こに營營えいえいを息め
嘯歌しょうかして炎燠えんいくを静しずめん

帯を解いて新しい竹の周りを計つてみたりする
沈み考え込んでどうしようというのだろうか
静かな孤独は元来希望していたことじゃないか
幸い、ここで世間の煩わしさを逃れることができた
歌をのどかに吟じ、この炎暑を静めることにしよう

王維や孟浩然とともに自然詩人として名を馳せた柳宗元りゅうそうげんは、唐代中期の文学者・政治家。瀟川しょうせんに注ぐ谷川を愛し、近辺の土地を買つて家を建てた。名もない谷川が世を益することのない風景を自分になぞらえ、「愚溪」と名付けたそうである。政治家としてはたしかに不遇であつたが、そのほとんどが左遷以後にものされることとなつた彼の作品を見ると、政治上の挫折がかえつて文学者としての大成を促したのではないかと、韓愈の「柳子厚墓誌銘」などで評されると聞くと、人生そう捨てたものでもないと思へられる。

九州北部が例年より十三日遅い「梅雨入り」だとか、早速豪雨の恐れとの報道を目にした。何となく、不安定な様相を禁じ得ない昨今、『嘯歌して炎燠を静める』のも良いかと思う。

恋心四十にして穗芒ほすき

尾崎放哉

私は今年の夏に喜寿を迎える!!

《訂正とお詫び》

六月号

初夏即時時→初夏即事事

『酔いの徒然』（二四七）

丸山 酔宵子

『時代劇三昧の日々』

最近の外出着は、コロナ禍の頃から、背広にネクタイという一昔前のサラリーマンルックから極端に一転、カジュアルなスタイルに変わってきた。更に尚、書類や手帳などを入れて持ち歩いていたバッグも一切持たず、携帯電話をポケットに突っ込んで、手には何も持たず手ぶらでの外出である。

それに加え、仕事でのミーティングやその後の映画鑑賞などの合間に、時間が空いてしまうことも多々あり、その空いた時間を無駄にしたくないため、文庫本をお尻の左ポケットに入れて持ち歩いている。

最近、時代劇にはまっていて、池波正太郎、山本周五郎は勿論、特に今年に入ってから藤沢周平に凝っており、全編読破に近い。読むたびに一気に「藤沢周平ワールド」に浸るのである。

薫風や本を取り出すカフェテラス

酔宵子

兎に角左様に、時代劇の世界にのめり込んでいる今であるが、邦画の世界も最近二本の話題作がロードショー上映されている。

その一つが、これまで幾度も映像化されてきた池波正太郎のベストセラー「鬼平犯科帳」シリーズを、十代目・松本幸四郎主演で新たに映像化した時代劇シリーズの劇場版「血闘」である。

主人公の鬼平こと長谷川平蔵の過去と現在を交錯させながら、それぞれの時代で愛する者を救うため立ち上がる平蔵の熱き姿を描き出している。

長谷川平蔵のもとに、彼が若い頃に世話になった居酒屋の娘おまさが突然訪ねて来て、密偵になりたいと申し出る。平蔵にその願いを断られたおまさは、平蔵が芋酒屋主人と盗賊の顔を持つ鷲原の九平を探していることを知り、独断で調査に乗り出すのである。

鬼平こと長谷川平蔵は市川幸四郎が演じ、若き日の鬼平・長谷川鍔三郎を幸四郎の実子である八代目・市川染五郎が演じている。

我々の世代での鬼平犯科帳の長谷川平蔵は、二代目中村吉右衛門であるが、その甥にあたる現在の市川幸四郎も立派に演じている。

特に九平役の柄本明が、大昔の宇野重吉を思い出させるような渋い味を出している。

因みに、今は亡き初代長谷川平藏の中村吉右衛門は、大変な粹人で素晴らしい俳句も残している。

紫陽花や来し方如何に彷徨ふか

酔宵子

もう一つの重厚な時代劇は、草なぎ剛主演の「碁盤斬り」。「孤狼の血」「凶悪」の白石和彌監督が初めて時代劇のメガホンをとり、「ミッドナイトスワン」の草なぎ剛を主演に迎えて描いたヒューマン・ドロドロ時代劇である。

実は、この映画の基となる物語は、古典落語の演目「柳田格之進」で、それを基に本映画用に脚色されたのである。冤罪事件によって娘と引き裂かれた男が武士の誇りをかけて復讐に臨む姿を描くシリアスな本格時代劇である。

身に覚えのない罪をさせられたうえに妻も失い、故郷の彦根藩を追われた浪人の柳田格之進は、娘のお絹とふたり、江戸の貧乏長屋で暮らしていた。

実直な格之進は、かねて嗜む囲碁にもその人柄が表れ、囲碁でも嘘偽りない勝負を心がけている。そんなある日、旧知の藩士からかつての冤罪事件の真相を知らされた格之進とお絹は復讐を決意。お絹は仇討ち決行のため、自らが身を売る覚悟をするのであるが……。

草なぎ剛が演ずる格之進、敵役の斎藤工との、将に、死力を尽くしての「血闘」シーンは究極のチャンバラで、見ごたえ十分……。

また、脇を固めるのは大親分役の市村正親が、その威厳ある立ち姿とその声質が実に心地いい。そして、往年のアイドル小泉今日子が女郎屋の「遣り手女将」を堂々と演じていて素晴らしい味を出している。

チャンバラの余韻が残る薄暑かな

酔宵子

無窮を指さす

高橋育郎

「無窮を指さす」は中等音楽に載る「冬の星座」の歌詞

宇宙の果てしない広がりを目指す言葉

その果てしない宇宙の広がりとは人間の想像を遥かに超える

我々が想像できる広さは銀河系宇宙

そこに地球はあつて、太陽を中心に回っている。

しかし、それは小さな宇宙にしか過ぎない

その先に広がるいくつもの宇宙は想像を絶する

そんな芥子粒のような地球上で人間は愚かな殺戮を繰り返す

宇宙の創造主 神はどう見ているのだろう

人間がその愚かな戦争に気づいてやめるのを見ているのだろう

いつまでも気づかずにいれば 天罰がくだされるのだ

そのことを知ってほしい 人間の賢さを私は信じたい

神の怒りに触れる前に 愚かな戦争はやめようじゃないか

心に太陽を持ち 唇に歌を持ち

世界平和の訪れを 手にしようじゃないか

人間が知恵を持つ本来の人間

神がたまわりし人間であることに 気づけば

平和は達成できるのだ

絹の話 (164)

「アトリエテレビ」 今 泉 雅 勝

桑の葉を食べない蚕

多様化する蚕の利用

絹は古来より美しい装束、衣装などに使われて来ましたが、昨今蚕は多方面に利用され始めました。薬品などの実験動物としてマウスの利用がカルタヘナ法（動物保護）で制限されて来ると、生理も病理も解明されている人工昆虫の蚕（家蚕）が試薬等実験動物として利用が増えて来ました。

家蚕は30日前後という短い期間に卵の時の200倍の人に有効なタンパク質を作るので、将来の人工増加、生活上で動物タンパク質の不足を補う上で、昆虫食と合わせて食べるシルクが注目され始めました。

将来、長期間を要する宇宙探査の船内の自給食料として人工飼料による蚕が作るタンパク質が注目されています。絹を食品として利用すると糖尿病予防や体の震え、老化抑制など各種健康維持促進に効果があることも判つ

てきました。

絹の繊維利用では保温保湿性、静菌性、防紫外線性などに加えて幸せホルモン等の分泌が促されて気持ちが良いので、インテリヤや寝装品に使おうという動きが出てきました。

新たな養蚕

家蚕の食性は桑の葉です。養蚕には人手が掛かるので、日本では就労者が減って繭生産は激減しました。それを解消するプロジェクトが人工飼料と温度管理による養蚕工場です。

ところが蚕の人工飼料は古くから研究されて来ましたが、桑の葉の粉末を一定程度入れなければならないため、価格を下げられなく、養蚕工場の生産が計画通りに進捗しません。

そこで昨今安価な人工飼料を作る為に、桑の葉に依存しない新たな蚕を作る研究が進んでいます。リングやジャガイモの皮など、人間生活の残飯的な物を加工した飼料を食べて育つ蚕を作ろうとしています。さらに養蚕期間短縮のため、休眠時間の短い3眠蚕（通常の蚕は4回休眠する）の研究や、収量増大のため蚕の幼若ホルモ

ンや休眠ホルモンの調整で超大型の繭を作る事が可能になってきて、シルクタンパク質などの生産に役立てようと研究が進んでいます。

新たな絹産業

桑の葉を食べない蚕からどの様な絹が採れるかは判りませんが、先ずは将来枯渇が予測される動物タンパクの代替品として牛肉より安価である事が期待されています。

この製造方法は5齢の蚕（糸を吐く直前で蚕の体がシルクゲルでいっぱいの状態）を絞ってゲルを採る方法が考えられます。動物の屠殺場に替わって、蚕のクラッシュ工場ができると思われます。

シルクゲルは粉末などにも加工されますが、シルクのアミノ酸の粒子の連鎖数で機能性が異なるので、それぞれの用途に沿ったパウダ作りに発展してゆくでしょう。

食品では血糖値を下げるシルクハンバーグ、体の震えをおさえるドレッシング、抗酸化作用を利用した老化抑制食品など。

化粧品では紫外線予防をしながら顔のシミやシワを目立たなくするなど多岐に渡った商品開発が見込まれます。安価な絹繊維ができれば、健康維持に役立つ各種イ

ンナーや、寝装用品が幅広い年齢層に求められる様になるでしょう。

さらにスポーツ選手の体の消耗を抑制するトレイナー等、競技用衣類、特に低体温予防の登山用下着などの開発が期待されます。

桑の葉を食べない蚕の糸は絹か？

桑の葉を食べない蚕の絹は「絹」とは言はないという人もいるかも知れませんが、野蚕は桑の葉を食べず、それぞれの環境に応じた木の葉を食べています。彼らは木の葉から摂取したタンニンやカロチンを繭の繊維のフィブロイン（繊維中心部）やセリシン（繊維の中心を覆う）に溜め、紫外線や雑菌、食害などから身を守っています。

したがって桑の葉を食べる蚕が家蚕ならば、桑の葉の入らない人工飼料を食べる蚕は第二の家蚕と言えるでしょう。その絹の機能性にも違いが見られると思います。

第二の蚕の絹が安価で大量に生産され、衣料品ばかりでなく住居の内装材や寝具など、多方面に使われ、心身の健康維持、環境保全のために役立つ総合的利益が化学繊維以上の経済効果が見られるようになる事を願ってやみません。

「江上浩二の独り言」 79 江上浩二

私の百五十年

一昨年、令和四年は鉄道開業150周年記念だそうである。現桜木町と汐留新橋間を所謂蒸気機関車が初めて営業開始をした。当時は横浜と呼ばれて、小さな漁村だった所が日本の開国とともに近代化へ突っ走った拠点となり、色々な出来事の一つとして、メモリーである。現在の横浜は神奈川と呼ばれていた線路が左折する前の地域へ移り、旧横浜の漁村は大棧橋を始め、レインボーブリッジなど巨大な港のインフラ整備がされ、隣接した大企業の跡地が再開発されてみなどみらい地区と変貌してしまった。へ私は令和六年から約七十年遡って、七十／百五十年を断片的には観てきた事を示してみよう。

私は横浜生まれで、母方は埼玉、父方の家系は新潟出の祖父を持ち、両親は横浜の出であり、親類も南京町、伊勢佐木町、蒔田町界隈に多かった。私はてっちゃんでもなく撮り鉄でもないが、初の鉄道乗りの記憶は鶴見から大宮まで（母方の実家が埼玉県北足立郡にあり、大宮でバスに乗り換えた）の汚れた小豆色をした省線くずれの京浜東北線であった。約百五十年前は、歴史的には江戸時代の終焉から明治維新への日本にとって、大変革のスタートから暫く時が過ぎている。自分の生きてきた世界で、江戸時代の人を実体験的に聞いた

のは家内の母（九十六歳）が小さい時、義母の祖父と一緒に暮らしていたそうで、爺さんは江戸時代生れだと以前、口にしていたのが、唯一私の江戸時代である。自分の家系では男親系は短命で、精々私の二人の祖父までの話で、遡って明治中期、百三十年前位で止まってしまふ。私の旧姓の祖父は新潟県（明治初期の人口は日本で一番であった）の出で三男、親元を離れ、当時のルートを歩いたのかは定かでないが、日本では正確で立派な戸籍が残っており、旧中仙道筋を通って東京を目指し、途中の埼玉の戸田の在の女性を伴侶とし（現在戸田の美女木にの寺に墓がある）、大正時代の始めに東京巢鴨で叔母さんが生まれたことが記録に残っている。現在の大家の近くであり、更に東京を越えて横浜、桜木町近くの伊勢佐木町・長者町辺りに住み始めたようだ。そこで実父が生まれ、私の本籍も生を受けた時はそこであった。

私は鶴見区の生麦で生れ、近くに生麦駅（京急線）があり、並行して国鉄の踏切があり、そこを初の特急こだまが通過したのを見た記憶がある。当時私は学校に入学前の幼稚園生だったが、なぜだか家に小さな時刻表があり、よく時刻表で遊んだ記憶と書かれた地名の漢字を読んで入学前に結構漢字を理解していた。その後の出来事、生麦の家は社宅で茅ヶ崎に小さな一戸建てを父が建てる計画を進めており、横浜から茅ヶ崎まで東海道線で行く必要があり、ポケット時刻表があったわけであった。鉄道開通百五十年といわれても、インターネットなど無かった時代の時刻表の利便性、楽しさに触れなければならない。それは遊びであり、

どこか出かけたつもので（今でいうバーチャルみたいな世界）時刻表の鉄道（私の学生時代までは電車と蒸気機関車が混在していた）と拠点の駅で乗り換えが出来る民間バスの時刻表も豊富であった事を覚えていて。さて、どういったバーチャル体験が出来るかを説明すると、特急・急行・準急列車が豊富で、更に新幹線など無い時代には夜行列車も豊富で、学生時代にはお世話になったが、幼少期の頃でもレ点（列車の通過駅）が気に入り、レ点がずっと続いていると、それは特急だと嬉しさが顔に出る。普通列車・急行が停車する駅、例えば、2330/2347 2342/2345と普通が2330に着いて、続いて急行が2342に到着し、3分後の2345に出発したのち、更に2分後の2347に普通列車が出ていくという二つの列車が停車する駅だという事が分かる。夜行急行でも時間調整で400/430と早朝に30分も止まるケースもあり、面白さが小さな少年に醸し出してくるのだ。

小1の秋に茅ヶ崎へ引っ越して、小・中学校の生活が始まったが、当時は余り長距離の鉄道に乗る機会など無かった。両親、その先の祖父母の出自を紹介したが、皆近くについて、西日本、東北・北海道なども縁が無かった。父方の祖母が当時昭和の初め42・3才で病死して、祖母の実家に近くの寺に墓を設け、浦和の在で茅葺の農家の家が残っており、小さい時の記憶では横浜の町中から、場違いの東北のどこぞの村へお邪魔したような雰囲気が残る田園で、今では埼京線と東北新幹線が並行し、スピードアップして走る荒川の川向

この埼玉県戸田の美女木辺りの事である。精々、中学の修学旅行で京都方面へ日の出号で往復した事だけで、新幹線は利用できなかった。高校へ入学しても、長距離鉄道チャンス逃した。ひと学年で四百名以上いたので、確か山陰・山陽、四国と分散の修学旅行プランだったが、ある事情で学年で数名行けなくなった。ある事情とはクラブ活動で県大会まで勝ち残ったというか、辛うじて生き残ったので、修学旅行の方を諦めたのである。

1972年に大学に入って、漸く私の第二の鉄道利用期となる。個人的な旅行と運動クラブの合宿旅行、そして研究室へ入ってからの地方の学会参加の三つのカテゴリ。神奈川県から都内の大学へ進学し、国鉄と私鉄を乗り換えて通学は可能であったが、クラブとアルバイトで忙しく、アパートに一人住まいとなった。入学して半年ぐらい経ってからである。今考えるとこれが私が高齢との縁切りになった時期である。

その後二十歳から、一挙に四十六・七七年間の鉄道や航空機の経験は割愛し、最近のイベントと鉄道開業時の努力について触れる。山手線に新駅誕生という事で名称募集があり、私は高輪シーサイドで応募したが、高輪ゲートウェイで決定。暫くして新駅を見学し、なんとこの新駅脇で、横浜―新橋開業時の盛土遺跡（鉄道を通す場所が無く、やむなく当時海側に盛土をして、そこに走らせた）が発見されたそうで、其処も見学できた。その少し陸側がちょうど今の国道一号線で、正月の三日の昼頃で箱根駅伝の常勝校A学院を追って、K大学が差をつめていた日であった。

初狩便り
(32)



花
野
み
ぷ
り





すいか娘

かぼちゃ畑の奥の方に、ホームセンターで西瓜の苗を五本買ってきて植えてみた。初めてのことであったので、上手いか、獣害に遭わないか心配しながら見守ってきた。黄色の花を発見、そして小さな緑色の実を見つけた。ピンポン玉ほどの大ききなのになんと縞模様がある。よく見るとあつちに一つ、こつちに二つと実がついている。うれしなあ。西瓜の葉っぱに隠れるように実をつけているが、やっぱり心配なので鳥よけのネットを張った。

大きく育った、縞々のスイカがごろごろと転がっている七月末の蒸し暑い日、いよいよ収穫の時期がきた。子どもたちが喜ぶと思って「今日は西瓜を採るよ」と言ったのに、どこかに遊びに行ってしまった。ぼんぼんと叩くと良い音がする。「よし大丈夫」。

子どもたちの代わりに娘さんたちが、「あつたあつた」ときやつきやと声を上げ、「重〜い」と収穫した。ずらり並んだ西瓜と「すいか娘」たちのかわいいこと。

笹子川の冷たい水で冷やした西瓜は……はあ〜おいしい。夏の恵みをいただいたみんなの笑顔は特別だった。

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言

<https://hondachiro.exblog.jp/>

2024年6月10日

胃腸の問題

朝から雨だと無限に寝れそうです笑

今年は梅雨入りが例年より遅く感じます

ここ最近 食欲がない

吐き気 便秘や下痢 腹痛 □腔内の痛みや腫れ

などの胃腸の不調が出ています

咳をともなう流行り風邪

イネ科の花粉症

寒暖差からくる影響

水分不足

気圧の問題

などなど問題は多岐にわたります

ここに必要なのが

3S+ゆたぼん+ヨーグルト+水分 です

この方法は

腸へのアプローチがメインになっています

免疫を上げ 就寝で治す

というのが老化や劣化や弱体化を防いでくれる

唯一の方法だと思っています

ですので

また 3S+ゆたぼん+ヨーグルト+水分 か・・・

と読み流して思いがちですが笑

もう二度 確実に日々出来ているかを見直し

身体を守って行きましょう！

今日も楽しんで笑いながら行きましょう

2024年6月14日

蚊の登場

5月の下旬に

本田カイロプラクティックに
いらっしやった患者さんから

「庭の草むしりをしていたら 蚊に食われました」
と聞きました

5月下旬で???? と思いましたが

まさにその通りで

直ぐに蚊取り線香を焚きました

蚊取り線香の匂いは 夏の匂いで

懐かしい香りがします

まだ 梅雨前ですが笑

蚊に食われると痒くて腫れますよね

そこに X を昔は爪でやりましたが

今でもやるのでしょうか? 笑

そんな些細な動作が楽しかったりしますよね

湿度が高く気圧も不安定

イライラしがちで落ち込みやすい

そんな時こそ

今日も楽しんで笑いながら行きましょう

「散歩が暑湿を解消す」

日本の初夏は暑湿^{しよじつ}の気
暑さと湿気が合わさって
体に負担が増える季節^{とき}

湿気が梅雨から始まって
空気の密度をあげていき
しっとり じっとり 包む様に
お肌や髪にまとわりつく
肌に湿気が多くなりや
汗はかけずに 水停滞^{みずどまり}
熱もこもりて 浮腫^{むくみ}となり
怠^{おこ}くて重くて 動きが鈍る
こんな時にはまず歩き
手足を適度に動かせば
末^{すえ}から水が戻されて
胃腸や内臓 動き出し
水の代謝が促され

汗や尿が出やすくなる

夏の暑さは心煽^{しんあお}り

心拍あがって どくどくと

身体内側 熱上がり

熱が煩満^{はんまん} していくぞ

この時 筋肉しなやかに
動いて活動していけば

陽気を全身巡らせて

毛穴が開いて汗出でる

汗出りゃ 熱が放散し

心拍落ちつき取り戻す

暑さと湿が多い夏

早起き朝日を浴びながら

腕振り散歩し いちに さん

夕方 日暮れに 散歩して

湿気と余熱を 動かせば

汗かき発散 スッキリじゃ

これが初夏の養生で

避暑して 室内冷房で

座りっぱなしは弱るのみ



「いのちがいのち」に「反応す」

人は人のいのちのちとな
交流する中 様々に
互いの いのちのちが反応し
いのちのちに必要なこと起こる

赤子は母胎に発生し
心臓つくられいのちのちとなり
母のいのちのちと交流し
直接 言葉や行動を
表現する術ないけれど
生きる環境つくるべく
親や大人を動かして
うまれて育つ準備をす
妊娠：うまれる予定なきや
動かぬ行動 生まれてく
生まれたいのちのちは 肌触れて
同じ空間 共にすりゃ
お互い影響 及ぼしあい

言葉に表現しなくても
親子や兄弟 家族では
肌や心で感じ取る
家族は一つの まとまりで
互いの状態 受ける中
各自のあり方 決まってる

どんな時にも いのちのちが生きて
成長しようとする時にや
他のいのちのちも反応し
交流するべく現れて
何気ない言葉 行動に
感情・思考が 促され
いのちのちが成長・変化して
いのちのちの繋がり強くなる
いのちのちがいのちのちと反応し
成長・変化を助けるは
ごく当たり前にやっつてること
自然に働く現象ぞ



小説「後藤新平」を読み

人の邂逅に感有り

殿山木風

小楠は大政に蒙を發いて臨む

門下の人存り人に心有り

慈愛す良材亦天性

少年感奮して磁針と就る

讀「小説・後藤新平」於人邂逅有感

小楠大政發蒙臨門下人存人有心

慈愛良材亦天性少年感奮就磁針

(語釈) ○後藤新平：水沢藩(仙台藩の支藩)士族に生まれるも戊申の役後士族剝奪。少年の時、安場の知遇を得て人生を切り開き、医師、官僚、政治家となる。伯爵。

○小楠：横井小楠は幕末より事理に明るく、勝海舟が一目置いた。明治二年暗殺さる。

○大政：天下のまつりごと。蒙を発く：事理に暗いのを明るくする。○人：安場保和のこと。熊本藩出身。小楠門下の四天王と称される。胆沢県大参事として赴任後、福島県令始め各県令を勤め、政府高官となる。男爵。○慈愛：慈しみ愛する事。良材：優れた才能。○天性：生まれつきそなわっている性質。○磁針：ここでは山岡淳一郎の云う羅針盤の意。

(通釈) 横井小楠は幕末より天下のまつりごとに関し事理に明るかった。その門下に安場保和がいた。彼は明治維新での胆沢^{いざわ}県(旧水沢藩を含む)大参事となつたが、維新の行政に人存り、その人に「心」ありだった。

才能ある新平を生まれつきの(強い)性格をも含めて慈しみよく養育した。少年は学ぶところを大いに学び、長じて日本の国の羅針盤と称えられる人になつたのである。

※戊申の役で勝ち組と負け組が出来た。この勝ち組の人が負け組の少年にここ迄博愛精神を発揮したとは良き学問の上に余程人間が出来ていたのか。それだけでも明治は凄いものだ。

十三歳の少年後藤新平を初めて見た時から、この少年の裏も表も見抜いていた安場は少年を逸材と見込み、書記官の阿川眺裕に養育を依頼した。「この子の性を変えないで、本来のまま育て上げてもらいたい」と言つて預けた。「山岡淳一郎著：日本の羅針盤となつた男」の始めの頃のこの出会いを読むと、「人」との出会いの有り難さに感涙を禁じ得ない。

一方小楠門下の四天王と称えられた安場は小楠の説く公共感を良くモノにした人でもあった。安場の次女を妻としたが、新平の受けた恩と影響は計り知れない。人生は出会いだ。

編集室だより【二〇二四年七月】

今泉 由利

十一面千手観世音菩薩

私の祖父、今泉健蔵おじいちゃんは、「座敷で、十一面観世音菩薩と、寝起きを共にしていた」と話して下さっていました。

明治維新に際し、近所のお寺様、吞海山法佳寺に、うちのお座敷にいらした、十一面千手観世音菩薩を依託したのでした。

昭和四十年に、鉄筋コンクリート造りの収蔵庫に安置され、後に、八時間の猛炎の中にも耐えられる観音堂も新しく建築され、現在は、国宝に指定され、毎月十七日の、観者様命日には、賑いをしています。

祖祖父の代官職の資財の運営の、醸造業、味噌溜など、地元からの海運業の船舶が、伊勢に行った時、廃仏棄釈の時代、赤根の代官屋敷へお連れした、という観音様。

藤原本来の作風、優雅な仏様。像高一六七・三センチの松の一本彫成であり、後頭部、背部、両手は矧ぎ寄せられている。

長く美しい弧を描く半円形の眉と柳葉状の目。目じりがやや上って、眉の先端に相接し、鼻から唇にかけての鮮やかな線の鋭さ、厚目の唇も、ひきしまった鋭さ、髪際と肩との間隔が極端にまで狭い天冠合の意匠の鼻、唇、豊頬：藤原期的特色を見る。宝髪の群青、眉の墨、唇の朱以外は素木造り、胴体や両脚の朱以外は素木造り、胴体や両脚のあたりに亀甲つなぎ、七宝つなぎ、菊花文などり截金がおかれている。八百年以上昔の金のほのかな光、浮出し文様。

もと伊勢宇治山田の上善寺に祀られていたのだそうです。明治維新の際、神仏分離が盛んになり、その時、伊勢へ交易に行き、代官家に渡した、と伝えられる。

古代の女帝、持統上皇が訪れたと伝えられる御律町御馬に、短歌結社「三河アララギ」を主宰する御津磯夫。今泉由利の父です。

三河国、愛知御津が引馬野安礼乃埼、宮路山をめぐり流れて引馬野に流れくだって、三河湾へ注ぐ。川口に昔あつた岬が万葉の安礼乃埼、川口から、遡つて都橋、御所橋、持統帝行在宮跡、五社宮、剣橋、玉袋橋、こんな環境に生れ育つた。生れ育つ途中は、この環境だつた。父母の環境だつた。自然に私の中に『三河アラギ』が育つていた。

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一五〇・〇〇一三

東京都渋谷区恵比寿三・四五・三

フオーレストヒルズ三〇二

ケイタイ 090・8434・8646

TEL 03・6765・5838

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail imayurizm@gmail.com

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇どなたも参加、投稿いただけます。

三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。

◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。

◇会費制は廃止。

◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。

◇令和六年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。

◇編集・発行 今泉由利